

平成22年度事業報告書

1. 生涯学習に関する普及・啓発活動

(1)全国生涯学習フォーラム高知大会への参加（中央事業）

①大正琴合同演奏会

年 月 日：平成22年11月22日(月)

場 所：高知市文化プラザかるぼーと 大ホール
(高知県高知市)

事業の内容：フォーラムは“まなび愛つなげ龍馬の「志」”のキャッチフレーズのもと「協働」「持続」「発信」を大会のコンセプトとし、県民一人ひとりが取り組み、高知県から発信することを目的に開催された。会員及び大正琴愛好者がフォーラムの主旨に賛同し、雄大な自然と温暖な気候、豊かな食に恵まれ、また、歴史の街として高名な高知市の高知市文化プラザかるぼーとに於いて大正琴合同演奏会を開催した。

生涯学習に於ける活動の場を提供するとともに、会員・愛好者の演奏技術・音楽レベルの向上と大正琴の普及・振興を図った。

事業の成果：大会主旨に賛同した、地元高知県を始めとする四国地方及び岡山、山口県等の会員・愛好者22グループ延べ884名が一堂に会し、邦楽からJポップに至る43曲を演奏した。幾度かの改良がされ、独自のアレンジやアンサンブルを楽しめる楽器に成長した大正琴から奏でられたハーモニーは入場者の心を魅了した。

地域や世代を越えて多くの人々が大正琴を通して学びを体験し、交流を広げることができた。

出 場 者：	指導者	3グループ	100名
	一般演奏	19グループ	784名
	合 計	22グループ	884名
入 場 者：			350名

(2)都道府県レベルの生涯学習イベントへの参加（地方事業助成）

事業の内容：各都道府県においては、人々の生涯学習に対する意欲を高

めるとともに、人々の学習活動への参加を促進することを目的としたイベントが多数開催された。

これらのイベントに、都道府県レベルの大正琴関係団体や大正琴愛好者を含むグループが参加しようとする場合に必要な助成を行った。

事業の対象：都道府県レベルの大正琴関係団体、大正琴愛好者を含むグループなど10件、総額20万円。内訳は別紙地方事業助成一覧（別紙1）記載のとおり。

(3)小・中・高等学校等における大正琴普及事業（中央事業）

①小・中・高等学校等における大正琴伝承教育の実施

対 象：導入を希望する小・中・高等学校等

事業の内容：日本で生まれた楽器・大正琴に関心と興味を持たせ、近代日本の伝統文化の一つである大正琴を子ども達の世代に伝承した。

また、音楽を通して明るく豊かな心を育むことを期待して行なった。

事業の成果：使わなくなった大正琴を会員から回収し、修理再生して全国の小中高等学校66校に220台を寄贈した。併せて、講師を派遣し、大正琴演奏技法について講習を行った。受講生は1,222人に及んだ。

当該事業は、日本財団より助成金の交付を受けて実施した。

②全国子ども大正琴コンクールの実施

年 月 日：平成22年9月23日(木・祝)

場 所：中電ホール（愛知県名古屋市）

事業の内容：目標を持って大正琴に接する機会を増やすとともに、次世代へ継承することを目的に全国の子どもを対象としたコンクールを開催した。

会場で演奏をし審査をするライブ参加部門と、会場に來れない子ども達に参加の機会を提供するため送られたビデオ映像にて審査をするビデオ参加部門とを設けた。

事業の成果：ライブ参加部門に15グループ92名、ビデオ参加部門に22グループ204名、合計37グループ296名が参加し、日頃の練習の成果を披露した。

年々演奏技術が向上し、審査も拮抗した。参加した子ども

も達の中には、当コンクールをきっかけに、地元イベントのゲストとして招待され、大正琴を通してコミュニティに参加するようになった。

また、大正琴唯一のコンクールはマスメディアにも取り上げられ、多くの人に大正琴の魅力を紹介できた。

当該事業は、日本財団より助成金の交付を受けて実施した。

(4)機関誌を利用した生涯学習の奨励、学習情報の提供等

事業の内容：会員や大正琴愛好者に対して、機関誌を通じて生涯学習を奨励したり、学習情報を提供することにより、生涯学習の普及・啓発を図った。

また、演奏会等において、入場者である一般市民に、生涯学習の普及啓発を目的としたパンフレット等の配付をした。

事業の成果：①協会案内

大正琴の歴史、当協会の沿革及び活動に関する情報を提供することを目的として発行した。

②機関誌「協会たより」を年2回発行した。

7月（35号）6,000部

2月（36号）6,000部

記事の概要

・第35号

理事長挨拶、第35回通常総会議事録、平成21年度収支決算報告、トピックス、会員だより、理事長表彰受賞者の紹介、大正琴伝承教育の事業紹介、協会主催中央事業予定

・第36号

理事長挨拶、第36回通常総会議事録、平成23年度事業計画書及び収支予算、全国生涯学習フォーラム高知大会大正琴合同演奏会終了報告、会員だより、講演会報告、全国子ども大正琴コンクール報告、トピックス

(5)普及功労者表彰事業（中央事業）

事業の内容：永年にわたり生涯学習の振興又は大正琴の普及に尽力した48名に表彰を行なった。

2. 生涯学習に関する各種講座、講演会の開催等

(1)協会主催の講座、講演会の開催（中央事業）

年 月 日：平成22年12月8日(水)午後2時00分～午後3時30分

会 場：大阪ガーデンパレス（大阪市）

テ ー マ：食べ物の風味と健康

講 師：関西福祉科学大学 教授 的場輝佳 先生

参 加 者：73名

事業の内容：戦後から近年への食生活の変化、家事労働の軽減化に伴う食文化の影響・問題点について参加者とともに考えた。利便性が手抜きに繋がる傾向がみられる中、食生活がもたらす身体への影響、栄養バランスの重要性、日本の食文化・伝統について「だしの取り方」を例に説明した。

事業の成果：食は人格形成の基本であり、バランスの良い食生活は心身に大きな影響を与える。日本の風土を生かした食材、食文化の素晴らしさを見直す機会となった。

「食育」について受講者は熱心に耳を傾け、質疑応答も活発にされ有意義な講演会となった。

(2)地域における各種講座・講演会の開催、生涯学習機会の提供等への援助（地方事業助成）

事業の内容：都道府県レベルの大正琴関係団体、大正琴愛好者グループなどが生涯学習に関する講座・講演会等の開催を奨励し、このような事業の開催を幅広く呼び掛け、開催費用の助成などを行った。

事業の対象：都道府県レベルの大正琴関係団体、大正琴愛好者グループなど10団体に助成を行った。

総額20万円。内訳は別紙地方事業助成一覧（別紙2）記載のとおり。

3. 大正琴演奏会、指導者研修会の開催等

(1)演奏会の開催（中央事業）

①全国生涯学習フォーラム高知大会 大正琴合同演奏会
詳細は前記のとおり。

②全国子ども大正琴コンクール
詳細は前記のとおり

③第25回国民文化祭「大正琴の祭典」

年 月 日：平成22年11月6日(土)、7日(日)

場 所：勝央町文化ホール（岡山県勝田郡勝央町）

事業の内容：岡山県北東部に位置する勝央町で、新たな出会いと交流の場を創ることを目的として、文化庁・岡山県が主催する国民文化祭に於いて「大正琴の祭典」を開催した。初日は県内30グループ、2日目は県外25グループの愛好者が参加し、地域・流会派の垣根を越えて大正琴の音色が響き渡った。

事業の成果：大正琴愛好者が流会派独特の演奏技法によって奏でた音色は、会場を埋めつくした入場者の心を魅了し、音楽を通して感動や喜びをともに分かち合った。また、大正琴文化の一層の向上を図ることもできた。

役場職員・地元ボランティア・大正琴愛好者が一丸となって企画・運営に取り組み、文化による豊かな地域社会づくりに貢献した。

出 場 者：6日(土)県内30グループ、7日(日)県外25グループ
2日間合計 1,341名

入 場 者：6日(土)、7日(日)合計 805名

(2)大正琴誕生100年記念事業（中央事業）

①大正琴誕生100年記念 プレ合同演奏会の開催

年 月 日：平成23年1月19日(水)

場 所：神奈川県民ホール 大ホール（神奈川県横浜市）

事業の内容：大正元年に創作された日本固有の楽器大正琴は、わずか一世紀で日本文化の一つへと成長し多くの人から支持されるようになった。先人への感謝と大正琴音楽を次世代に繋げるべく、国際色豊かな港町横浜で演奏会を開催した。

事業の成果：「ロマンが繋いだ創造の一世紀 ～大正琴の彩音 今 未来へ～」のサブテーマのもと、関東地方を中心とする大正琴愛好者1,700名が一同に会し、色々なジャンルの楽曲48曲を演奏した。巧みな技法で奏でられた大正琴の調べは来場者の琴線に触れた。また、全国子ども大正琴コンクールで最優秀賞を受賞したグループを特別ゲストに迎え、世代を超えた交流を計ることが出来た。

出 場 者：	指導者	2グループ	14名
	一般演奏	21グループ	1,681名
	子ども	1グループ	13名
	合 計	24グループ	1,708名
入 場 者：			553名

(3)地域における大正琴演奏会開催への援助（地方事業助成）

事業の内容：各都道府県においては、人々の生涯学習に対する意欲を高め、学習活動への参加を促進することを目的としたイベントが多数開催された。

これらのイベントに大正琴愛好者が参加し、生涯学習活動の一環としての大正琴の普及を図るため、演奏会等を開催した事業に必要な助成を行った。

事業の対象：前記のとおり。

(4)指導者研修会の開催

年 月 日：平成23年3月2日(水) 午後1時30分～午後3時00分

会 場：京都ガーデンパレス（京都府京都市）

テ ー マ：育てるよろこびと日本人のありかた

講 師：邦楽家 山田隆 先生

参 加 者：67名

事業の内容：大正琴を通して生涯学習を推進する会員・指導者は生涯学習の意義を理解し、広く学習機会に対応できる素地を養うとともに、音楽的な専門知識についても理解し、資質の向上を図った。

事業の成果：全国に散在している会員に研修の機会を等しく提供するため平成22年度は会場を京都市に移して行なった。

指導とは相手を認め自分を認めることに始まる。謙虚な気持ちを持って生徒に接することが真の指導者であると、多くの優秀な人材を育成された経験をお持ちの山田先生により解りやすく講習された。

参加者は遠方からも訪れ、熱心に聞き入り、知性、文化、音楽に対する積極的な取組みが窺えた。

4. 調査研究事業

(1)全国の博物館に於ける大正琴所蔵の調査研究

事業の内容：大正琴誕生100年を期して、現存している大正琴の所蔵状況を記録として残すために、全国の博物館・資料館等770余りを対象に大正琴の所蔵調査を実施した。提供された資料を基に図録を作成し、大正琴の文化価値を高める。

事業の成果：調査の結果、90箇所余りの全国の博物館で、合計210台余りの大正琴を所蔵していることが分った。

平成23年度中に図録を作成し博物館、資料館及び図書館等に贈呈する。

5. 出版物の刊行

- (1)機関誌「協会だより」を年2回発行した。A4判 8ページ 白黒
7月(35号)6,000部、
2月(36号)6,000部

事業の内容：全国の会員・愛好者らを対象に、生涯学習、大正琴及び当協会の活動に関する的確な情報を提供することにより、会員の認識、共通の意思並びに連帯感を高め、公益法人としての機能が円滑に運営されることを目的として発行した。記事の概要は前記のとおり。

(2)ホームページの制作

事業の内容：一般市民、全国の会員・愛好者を対象に、大正琴及び当協会の活動に関する的確な情報を提供することにより、大正琴文化への関心を高め、人々に生き甲斐を与え、生涯学習の普及・振興の一助を図った。